

ONKYO®

**2016年3月期
第2四半期(累計)決算説明**

(2015年4月～ 2015年9月)

オンキヨー株式会社(証券コード:6628)

本資料に関するご注意等

- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。
- 各数値の表記については「第6期 第2四半期報告書」の記載に準じております。

連結業績ハイライト

(百万円)	16/3月期第2四半期	前年同四半期比
売上高	277億95百万円	123億21百万円
営業損失	25億26百万円	△13億60百万円
経常損失	26億88百万円	△12億45百万円
親会社株主に帰属する 四半期純損失	26億25百万円	△21億48百万円

トピックス

- パイオニアホームAV事業、電話機、ヘッドホン関連事業等の統合で売上高増加
- AV事業はオンキヨー、パイオニアブランド製品ともフラグシップモデルが高評価
- デジタルライフ事業でヘッドホン等ポータブル製品市場への本格的参入
- OEM事業は車載用スピーカーは堅調ながらPC用マイクロスピーカー受注減

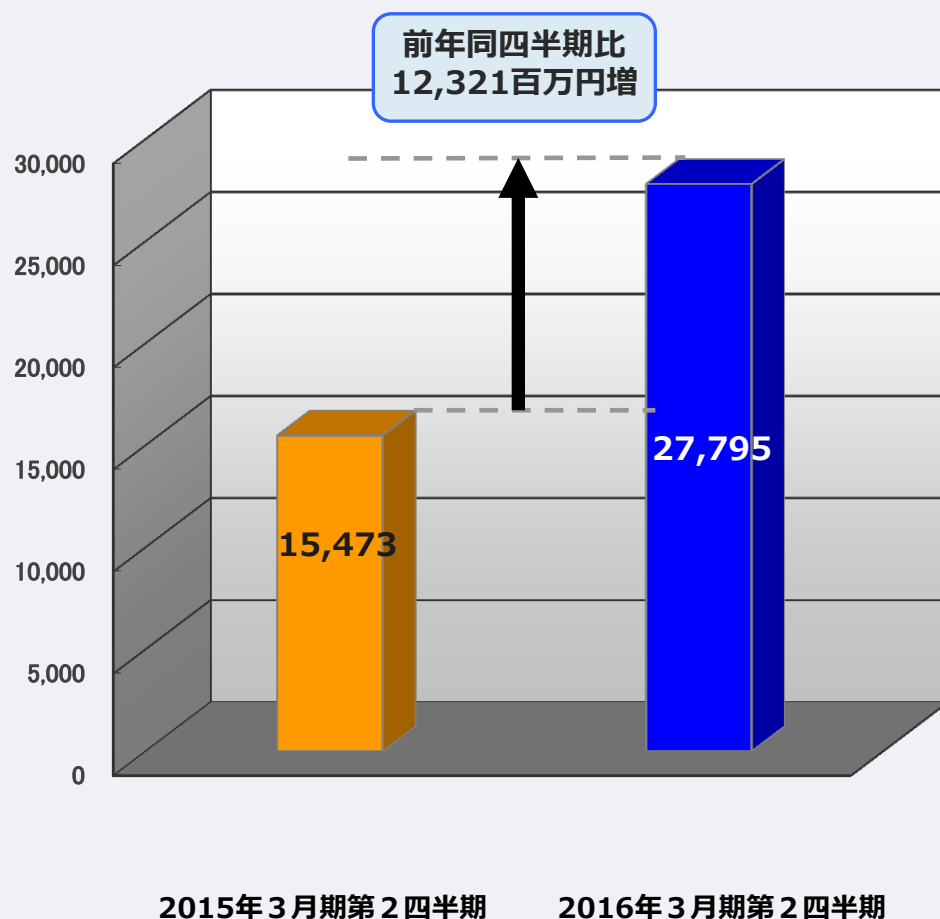
連結損益計算書

(百万円)	15年3月期 第2四半期	16年3月期 第2四半期	前年同期比	16年3月期 第2四半期予想
売上高	15,473	27,795	12,321	-
売上原価	11,805	21,619	9,814	-
売上総利益	3,668	6,176	2,507	-
販売費及び一般管理費	4,834	8,702	3,868	-
営業損失(△)	△ 1,165	△ 2,526	△ 1,360	-
営業外収益	161	271	109	-
営業外費用	439	433	△ 6	-
経常損失(△)	△ 1,443	△ 2,688	△ 1,245	-
特別利益	740	81	△ 659	-
特別損失	2	3	1	-
税金等調整前四半期純損失(△)	△ 704	△ 2,610	△ 1,906	-
法人税、住民税及び事業税	30	108	77	-
法人税等調整額	△ 204	△ 22	181	-
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△ 55	△ 71	△ 16	-
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△ 476	△ 2,625	△ 2,148	-
売上総利益率	23.7%	22.2%	-	-
営業利益率	△7.5%	△9.1%	-	-
経常利益率	△9.3%	△9.7%	-	-
EPS	△7円68銭	△36円05銭	-	-

※第2四半期の数値予想は開示しておりません。

第2四半期(累計) 売上高分析

売上高分析 (百万円)



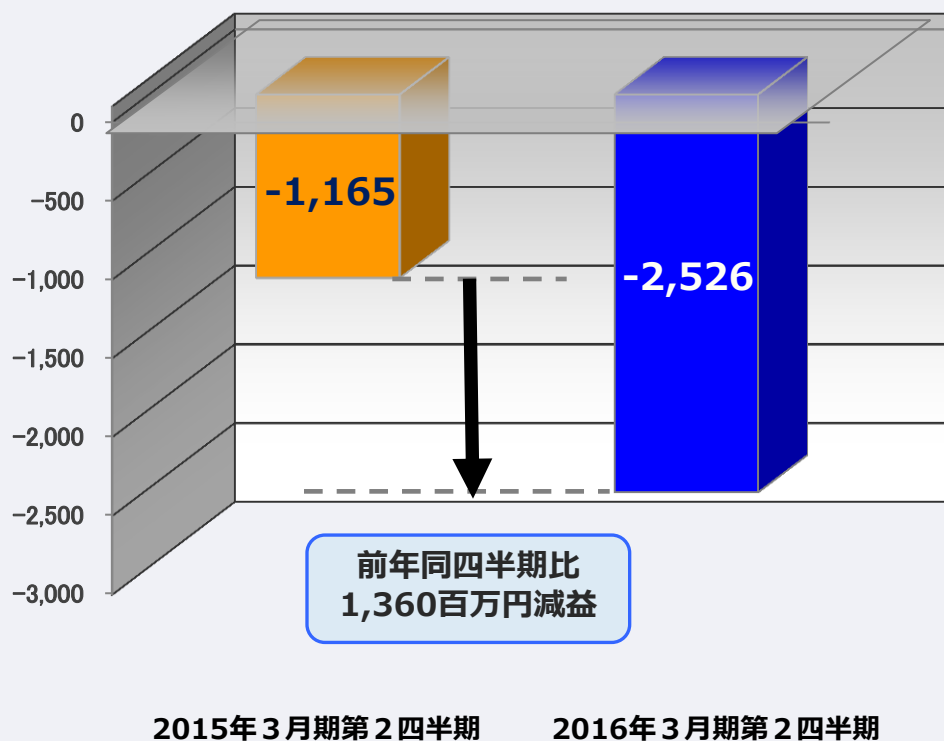
パイオニアグループのホームAV事業、電話機およびヘッドホン関連事業の統合により、事業単位をAV事業、OEM事業および、電話機、ヘッドホン等モバイル機器や音楽配信事業等の新ジャンルを統括するデジタルライフ事業の3事業に組織再編を行いました。市場環境は不透明な状況の中、パイオニアのホームAV事業、ヘッドホン関連事業および電話機事業の統合により売上高は大幅に増加しています。

■パイオニアブランドAV製品、およびヘッドホン、電話機等のデジタルライフ製品の寄与により売上高は前年同四半期比12,321百万円増収の27,795百万円となりました。

■車載用スピーカーの売上が堅調に推移しましたが、PC用のマイクロスピーカーやセンサー等の受注は減少いたしました。

第2四半期(累計) 営業損益分析

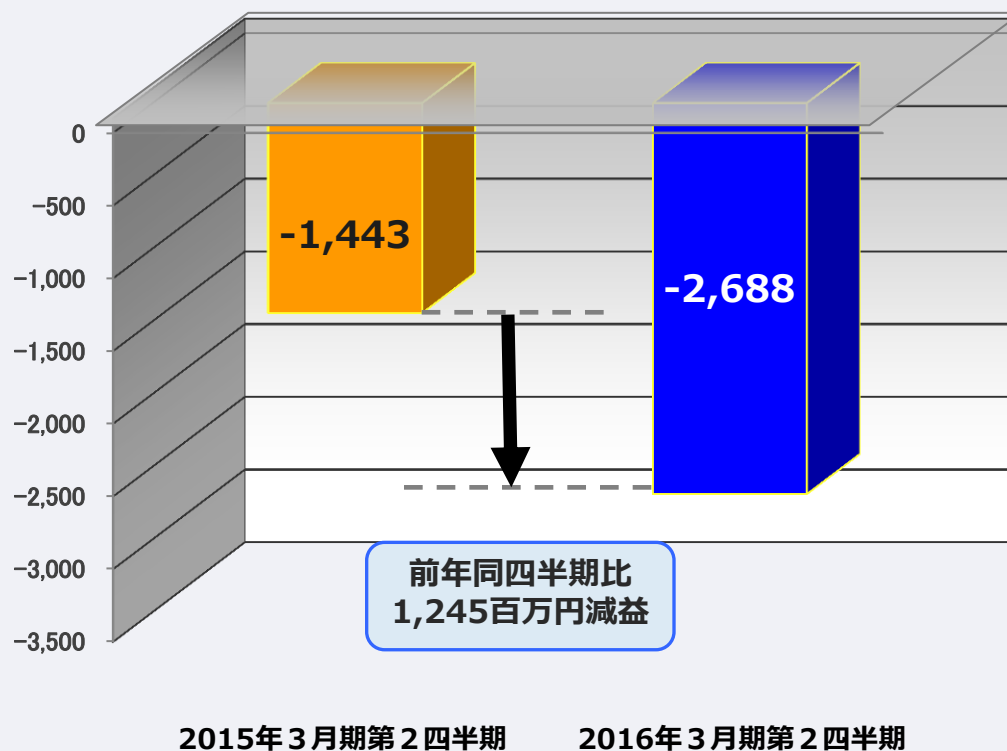
営業損益分析 (百万円)



円安ドル高による原価上昇やユーロ下落による利益の目減りとともに、新製品の導入にかかる販売費の先行、統合にかかる一時的なインフラ整備など、事業統合によるシナジー効果の早期に実現のための経費を計上したため、営業損益は前年同四半期比1,360百万円減益の2,526百万円の営業損失となりました。

第2四半期(累計) 経常損益分析

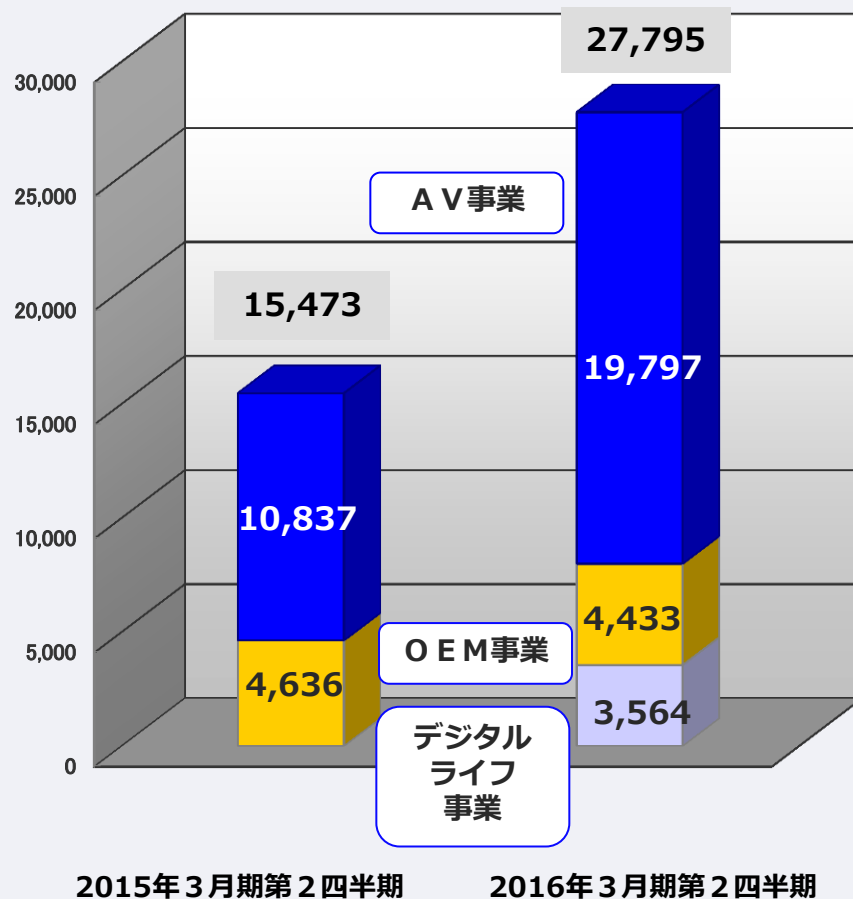
経常損益分析 (百万円)



営業利益の減少にともない、経常損益は前年同四半期比1,245百万円減益の2,688百万円の経常損失となりました。

第2四半期(累計) 事業セグメント別売上高

事業セグメント別売上高 (百万円)



【AV事業】

新製品の市場投入が概ね完了。オンキョーブランドのハイファイオーディオ、パイオニアブランドのAVレシーバーが英国の著名雑誌から高い評価を受けております。第2四半期ではパイオニアブランドAV機器の売上の寄与により、前年同四半期比8,960百万円増収の19,797百万円となりました。

【OEM事業】

車載用スピーカーが堅調に推移しましたが、PC用のマイクロスピーカーやセンサーなどの受注は減少しており、前年同四半期比203百万円減収の4,433百万円となりました。

【デジタルライフ事業】

電話機、ヘッドホンの販売に加えフィリップスブランド製品の寄与により、3,564百万円の売上高となりました。新規事業分野での市場開拓に向け、新製品の開発、拡販に期待が寄せられています。特にポータブルデジタルオーディオプレイヤー(DAP)は高い音質、性能で各方面より注目を集めています。

連結財務状況について

(百万円)	15年3月期 期末	16年3月期 第2四半期	差額
流動資産	21,064	25,317	4,252
有形固定資産	4,355	4,223	△ 131
無形固定資産	880	856	△ 23
投資その他の資産	2,777	2,411	△ 365
資産合計	29,077	32,810	3,732
流動負債	20,026	27,568	7,542
固定負債	5,565	4,540	△ 1,024
負債合計	25,591	32,109	6,517
純資産合計	3,485	700	△ 2,785
負債・純資産合計	29,077	32,810	3,732

第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末（平成27年3月期）に比べ3,732百万円増加し、32,810百万円となりました。

有利子負債は前連結会計年度末比657百万円減少の8,137百万円となりました。

純資産は前連結会計年度末比2,785百万円減少の700百万円となりました。

2016年3月期 通期連結業績予想について

(百万円)	15年3月期	16年3月期 (予想)	差額
売上高	35,563	65,000	29,436
営業利益または 営業損失(△)	△ 2,616	800	3,416
経常利益または 経常損失(△)	△ 3,483	500	3,983
親会社株主に帰属する当期純利益 または当期純損失(△)	△ 4,060	400	4,460
一株当たり当期純利益または 当期純損失(△)	△64.58円	5.46円	-



ONKYO.